

第45回日本死の臨床研究会年次大会報告

大会長 小杉寿文

予想も付かないコロナ禍により、完全 WEB での開催となりました第45回日本死の臨床研究会年次大会ですが、約1900名近いご参加をいただくことができました。ご講演いただきました皆様、また勇気を持って事例検討やポスターにご発表いただいた皆様、大会の運営にご協力いただきました皆様方に熱く御礼申し上げます。

本研究会の目玉であります、事例検討に関しましては、これまで本研究会で培ってきた死の臨床現場での葛藤や悲しみ、共有して前進する喜びを会場で分かち合うことが醍醐味であります。WEB開催になった場合、この醍醐味を味わえるのだろうかということが、最大の懸念事項でありました。しかし、実際にはチャットにたくさんのご意見をいただき、いつもより多くの座長を用意していたにもかかわらず、ご意見をさばききれないという嬉しい状況も見受けられました。通常開催形式では発表しきれない数のご意見をいただけたことは、コロナ禍を別として、WEB形式での事例検討開催の余地もあるのではないのでしょうか。各地域での研究集会なども含めて、交通費や宿泊費を節約しつつ行うことが可能です。しかし、実際に直接会って親交を深めたり、議論を行うことが最も良いことは当然であります。私たちは、本年次大会の懇親会をどの様に開催するかを大変悩みました。大会そのものがWEBとなり、懇親会を開催できなかったのは残念ではありますが、正直言って、少し肩の荷が下りたことは間違いありませんでした。それだけ、これまで毎年の年次大会の懇親会は、各地域の特徴を生かした、心温まるおもてなしをしていただいていたからであります。このような所を、改めて気づくことができました。来年度以降の年次大会が、さらに心温まるものになりますよう、お祈り申し上げます。

大会長 梅野理加

第45回日本死の臨床研究会年次大会、福岡大会に多くの方々にご参加いただきありがとうございます。死の臨床現場において活躍される会員の皆さま、当事者の方、ご家族の方など広くご参加いただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。

今回はコロナ禍のため、初めてのWEB開催となり、現地会場でも万全の感染対策を行いながらの開催でした。福岡の地では、皆様と向き合いながら討論はできませんでした。しかし、「今だからできたこと」が、たくさんの企画で、期待以上に実現したのではないかと思います。講演していただいた先生方の貴重なお話を繰り返し映像で見ることもできました。

特別事例検討や事例検討では、チャット機能を使用し、参加者からの意見や質問、感想をたくさんいただくことが出来、発表者から参加者へのフィードバックがより一層可能となる体制となりました。またシンポジウムは、期間限定にはなりますが繰り返し見直すことが可能となり、自己研鑽できる機会として研究会の充実につながったのではないかと思います。

そして、災害支援企画ではとても大切なお話を聴くことができ、さらに映像として残すことで、次の世代への継承という貴重な機会になったのではないかと思います。

今大会において、WEB開催ならではの企画、貴重な映像資料を残すことが出来たことは、大変光栄でした。企画委員一同、深く感謝しております。

今後とも、日本死の臨床研究会向上のため、ご指導ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願いたします。